

# 精神障がい者地域移行・地域定着支援事業

## 平成27年度事業概要

### 1 事業目的

精神障がい者が、住み慣れた地域で、本人の望む充実した生活を営めるよう保健、医療、福祉等の関係機関の連携のもとで、入院患者の地域移行、並びに、精神障がい者が安定した地域生活を継続するための支援を推進する。

### 2 事業内容

#### (1) 体制整備

##### ① 精神障がい者の地域生活を考える関係機関連絡会

**ア 目的** 地域移行・地域定着をすすめるために、地域生活を支援する土壌をつくり、関係職員の人材育成と関係機関のネットワークの再構築を行う。

**イ 運営方法** 官民協働、多職種で構成した運営委員により、連絡会の企画・運営を行う。  
**《委員構成》** ※平成27年度は8名で構成。精神科病院の看護師、精神保健福祉士、相談支援事業者の相談支援専門員基幹相談支援センター相談員、保健師、区役所ケースワーカー ※運営委員会は7回開催(H27年4月～H28年1月)

#### ウ 対象者

市内精神科病院(総合病院含)職員、相談支援事業所職員、行政職員、その他

#### エ 実施内容

	開催日	内 容	参加人数
第1回	平成27年 7月29日 7月30日	「社会資源見学ツアー」 業務に生かせるよう、市内にある精神保健医療福祉に関する社会資源(精神科病院、居住・就労施設等)を見学した。	全4コース 88名
第2回	平成27年 11月20日	「地域移行・地域定着支援研修会」 精神障がい者の地域移行・地域定着支援に取り組むための人材育成と顔の見える関係づくりを目的とし研修を行った。 今年度は、「地域活動支援センターひなた」のメンバーからリカバリーストーリーを語ってもらう特別講義と模擬事例で退院に向けた支援、地域生活への支援の検討するグループワークを行った。	81名
第3回	平成27年 3月開催予定	「精神科病院情報交換会」 地域移行の取組みについて 退院後生活環境相談員、PSW業務について等	市内10病院 対象

## ② ピアサポートの活用

- ・ピアサポート活動調査 ※調査結果は、別紙参照

精神障がい者が安心して地域生活を送るために、近年は当事者からの支援も必要不可欠であることから、ピアサポート活動状況について、新潟市内の障がい福祉サービス事業所等へ調査を行い、「入院生活」、「退院までのこと」、「地域生活」等について、自身の体験を語ることができる人材を発掘し、今後の地域生活支援業務に効果的に活用するために、市内障がい福祉サービス事業所等にピアサポート活動調査を行った。

### 《調査対象事業所》

地域活動支援センター(38施設)、就労移行支援(15施設)

就労継続支援(34施設)、グループホーム(11施設)

## ③アパート暮らし体験事業

民間アパート1室を借り上げ、一人暮らしを想定した体験部屋を用意し、日帰り利用または体験宿泊をすることで、アパートでの一人暮らしがどんなものか具体的なイメージをもってもらうことを目的とした事業。「地域生活支援センターふらっと」に委託。

平成25年度から、障害者総合支援法個別給付受給者は利用料免除とした。

### 《対象者》

- ・障害者総合支援法による地域移行支援または地域定着支援を利用されている方
- ・新潟市内の精神科病院に入院中で主治医の同意のある方
- ・新潟市内の障害者総合支援法に定める障害福祉サービス事業所管理者等から推薦のある方

### 《実績》

実施年度	宿泊利用	日帰り利用	見学	利用者のうち退院者
平成24年度	23泊(3名)	5名	20名	0名
平成25年度	26泊(10名)	7名	42名	4名
平成26年度	54泊(23名)	3名	44名	1名
平成27年(4月~1月)	21泊(9名)	5名	53名	0名

## (2) 精神科病院との個別情報交換

- ・精神科病院と地域移行等に関する情報交換の実施

新たな長期入院を生まない医療福祉体制づくりをめざすため、市内精神科病院を訪問・面談し、種々のデータを提示し、情報交換を行うとともに、課題を抽出する。

2月中に、訪問日程を調整し、3月に訪問を実施する予定。

## 平成28年度の新たな取り組みについて

### 1 平成28年度重点目標

- ・従前の事業に加え、新たに当事者の力を活かす取組みを実施

### 2 ピアサポーターによる普及啓発活動

精神障がい者が地域生活を送るためには、精神障がい者と受け入れる地域住民の双方が安心して暮らせる地域づくりが重要である。精神疾患、精神障がい、精神障がい者の生活実態に関する正しい知識の普及がのぞまれる。

これまでは、医療、保健、福祉の関係者が当事者に代わり、これら知識の普及を行ってきたが、当事者が病気、障がい、生活、生きづらさを自らで語ることで、より効果的な普及啓発となると考える。

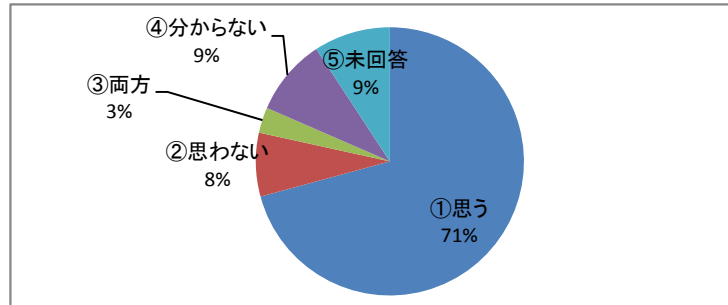
- (1) 目的 精神障がい者が自らの体験を語ることで、市民の精神障がいへの理解を深め、生活者としての信頼を得るとともに、精神障がい者が、支援される側から、支援者として効果的な資源になり得ることを目指す。
- (2) 方法 地域で活動している民生委員等を対象に、各区役所、地域保健福祉センター等で既に行われている関係者との連絡会議等と共催し、ピアサポーターの活動の場を作っていく。  
各区役所、各地域保健福祉センターの状況が異なるため、順次、打診を行い可能なところから実施していく予定。
- (3) 予算 8ヶ所に派遣可能な予算要求を行っている。内訳は以下。  
・ピアサポーター謝礼 @5,200円×16名(2名1組)  
・コーディネーター謝礼 @9,000円×8名
- (4) 従事者 すでにピアサポート活動を行っている地域活動支援センター、就労支援事業所のメンバー、職員  
(平成27年度に行ったピアサポート活動調査)

## ピアサポート活動調査 結果概要

- 対象85事業所
  - ・地域活動支援センター I・Ⅲ型
  - ・就労移行・就労継続支援事業
  - ・グループホーム
- 回収 65事業所 (回収率 76.5%)

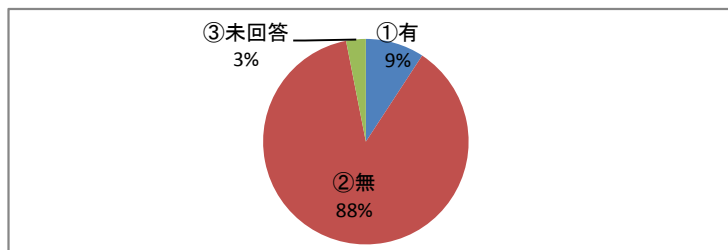
## 1 長期入院者が、精神科病院から退院していくために、当事者間の支え合いが必要と思いませんか？

	回答数	率
①思う	46	70.8
②思わない	5	7.7
③両方	2	3.1
④分からない	6	9.2
⑤未回答	6	9.2
合計	65	100



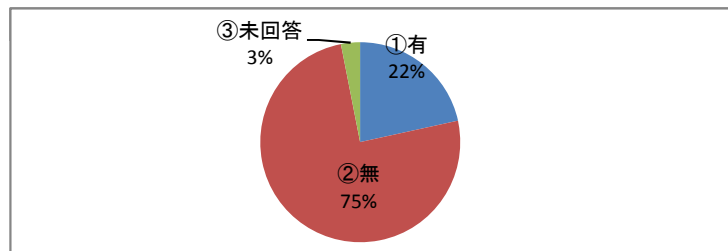
## 2 事業所内で当事者グループはありますか？

	回答数	率
①有	6	9.2
②無	57	87.7
③未回答	2	3.1
合計	65	100



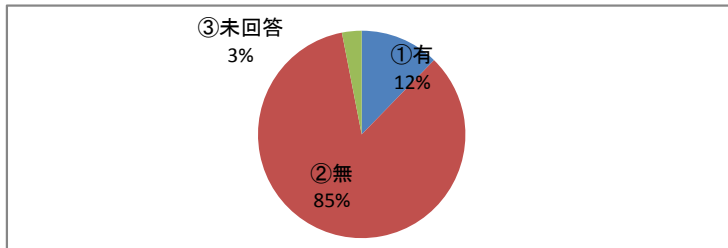
## 3 他事業所と利用者の交流を行っていますか？

	回答数	率
①有	14	21.5
②無	49	75.4
③未回答	2	3.1
合計	65	100



## 4 利用者が、関係機関等さまざまな場で体験発表を行ったことがありますか？

	回答数	率
①有	8	12.3
②無	55	84.6
③未回答	2	3.1
合計	65	100



## 4-1 「①有」と答えた8事業所のうち新潟市事業に協力が可能な事業所の体験発表を行える利用者の人数(H27年7月31日時点)

	施設種別	発表を行える利用者の人数	備考
1	地域活動支援センターⅢ型	0名	テーマによって確認してほしい
2	地域活動支援センターⅢ型	2名	その都度、本人と要相談
3	地域活動支援センターⅢ型	2～3名	
4	地域活動支援センターⅢ型	2名	十分な時間設定と事前打ち合わせが必要
5	地域活動支援センターⅢ型	2名	
6	就労移行支援・就労継続支援B型	5名程度	目的や話して欲しい内容がはっきりしているとありがたい。また、謝金等があるとありがたい。
7	就労移行支援・就労継続支援B型	数名	その都度、本人と要相談 十分な打ち合わせ